

2023年3月

「JSJ」での経験

元保護者 楊歆歆

(2022年1月～2022年12月在籍)

息子は小学校3年生(2019年)夏頃から南アで生活し始め、当初は現地校で英語及び現地の文化を学ばせたいという思いから、現地校に入学させました。一方、日本語を忘れない為に、2021年に日本人学校の体験入学を二度参加させて頂きました。体験入学二回目の最終日に、普段あまり自己主張しない息子から「日本人学校に転校したい!」と真剣に言われました。彼の考えを尊重し日本人学校に転校を決めました。最初は少し心配していましたが、そんな心配を吹き飛ばすかのように息子がイキイキして馴染んでいきました。入学後は毎日イキイキして学校に通い、慣れ親しんだ日本語で友人とコミュニケーションする姿、自分で勉強の楽しさも理解できるようになり、本当に入学して良かったと思います。

ヨハネスブルク日本人学校の先生達は、皆、熱心でレベルが高いです。南アで“日本式”をそのまま持ち込む困難さは、在住している企業の皆さんはきっと理解していると思いますが、それを生徒達に一切見せずに先生達メインで解決しようとする努力、本当に頭が上がりません。生徒達も、先生達の熱意に触れ、自然と勉強に取り組むようになったと思います。また、現地人先生による一人ひとりのレベルに合った英語の授業だけでなく、現地の学校との交流会も頻繁に行われており、その時も英語での自己紹介や日本のことについて説明するなど、日本の学校より格段に英語の習得に繋がります。

ヨハネスブルク日本人学校は、少人数制で運営されています。そのため、一人ひとりに目が行

き届き、個別のフォローやアドバイスが受けられます。少人数制であるため、様々なイベントや活動に積極的に参加することができます。運動会など、日本の学校でも行われるようなイベントを通じて、日本の文化や習慣を学ぶことができるだけでなく、高学年では二泊三日の世界遺産への野外学習もあり、南アの文化も体験することができます。また、仕事を語る会という南アの日本企業を訪問し、日本が南アにどれぐらい貢献しているかを知ることができ、改めて日本人である誇り、身をもって感じるすることができます。さらに、自分のお父さん達は実際どのように働いているかも理解でき、家族の絆も深まったと思います。これらの経験が、生徒たちの成長に繋がっていると親としても実感しています。

実は、息子は日本国籍を所持していなく、当初ヨハネスブルク日本人学校に入学資格もありませんでしたが、運営委員会と日本人学校で度重なる調整頂いた結果、入学資格を得ることができました。外国籍の子供も受け入れ可能＝グローバル化したことも日本人学校の魅力の一つだと思います。

日本帰任の為、わずか一年しかヨハネスブルク日本人学校に在籍することができませんでした。が、ヨハネスブルク日本人学校で卒業できたことは家族にとって一生の思い出になったこと間違いありません。また、最高の学校であるヨハネスブルク日本人学校に通うことは、息子にとって生涯にわたって貴重な経験となることでしょう。

本当にありがとうございました。

JSJ の更なる発展をお祈り申し上げます。